

2 研究会

(1) 定例研究会

平成15年度に開催された定例研究会は34回である。昭和22年4月1日の農業総合研究所開所以来、通算1952回である。

回次	月日	タイトル	報告者	開催場所
1919	15. 4. 8	Boys, be aggressive	今村 奈良臣 (東京大学名誉教授)	本所
1920	4.15	市町村農業公社における農作業受託の収益性分析——GISを利用した圃場収益の検討——	鈴村 源太郎	〃
1921	4.22	国際農産物需給モデルへの資源制約条件の導入	井上 莊太郎 上林 篤幸	〃
1922	5.13	小麦製品をめぐる価格伝達構造に関する計量経済学的研究	小島 泰友 (日本学術振興会特別研究員)	〃
1923	5.20	国際排出権取引に関する実験経済学を用いた分析	佐々木 宏樹	〃
1924	5.27	消費者選択モデルの政策利用(. 外国産米への消費者需要と食品安全性, . 地方環境税による森林整備と花粉症対策)	吉田 謙太郎	〃
1925	6. 3	麦関連産業に対する小麦の価格支持政策の影響	小島 泰友 (日本学術振興会特別研究員)	〃
1926	6.10	アメリカ・カナダの農業経営安定対策をめぐる最近の動き	吉井 邦恒	〃
1927	6.17	勘定体系による地域における資源・環境・エネルギーフローの把握	林 岳	〃
1928	6.24	食肉衛生関係法の史的展開過程	堀越 孝良	〃
1929	7. 8	遺伝資源の国境間移転をめぐる現状と課題——生物多様性条約の功罪——	山本 昭夫	〃
1930	7.15	アンケート結果からみた韓国の親環境農業政策——水田農業直接支払いを中心に——	柳 京熙(日本学術振興会, 当所科学技術特別研究員)	〃
1931	7.22	中山間地直接支払い政策の行政費用効率とその性格	相川 良彦	〃
1932	7.29	農家の青色申告と経営記帳に関する一考察	千葉 修 恒川 磯雄 ((独)農研機構近畿中国四国農業研究センター)	〃
1933	8. 4	品質向上型技術革新と持続的成長の可能性——日本の稲作に関する実証分析——	鬼木 俊次	〃
1934	8.26	中国における農村金融の展開と信用合作社	河原 昌一郎	〃
1935	9. 2	食品安全と危険分析(リスクアナリシス)の実現	宮城島 一明(京都大学)	〃
1936	10. 8	食料の総輸入量・距離(フード・マイレージ)とその環境に及ぼす負荷に関する考察	中田 哲也(関東農政局)	〃
1937	10.17	米生産調整政策の展開過程におけるとも補償の機能に関する研究	渡部 岳陽	〃
1938	10.21	収量変動と収入変動——米に関する予備的シミュレーション——	吉井 邦恒	〃
1939	11. 4	農村のボランティア・セクターに関する日本・カナダ比較研究	立川 雅司	〃

回次	月日	タ イ ト ル	報 告 者	開催場所
1940	15.11.11	認定農業者の経営改善意欲と経営成長	鈴村 源太郎	〃
1941	11.18	ブラジルのエタノール政策——世界エタノール市場及び砂糖市場への影響試算——	小泉 達治 (総合食料局食料企画課(前 FAO経済社会局商品貿易部))	〃
1942	11.25	合鴨稲作農家の作付行動——危険回避と経験効果——	藤栄 剛	〃
1943	12. 1	農業の持続的発展のための日中間の技術面の差異について——農業廃棄物の処理, 有機農法及び農業標準化に関する若干の問題——	張 孝安 (中国農業科学院)	〃
1944	12. 9	乳牛の乳量増加ホルモン(rbST) の生乳需給への影響	木下 順子	〃
1945	16. 1.13	農協の青年・女性組織の展開	千葉 修	〃
1946	1.20	人獣共通感染症・エキノコックス対策の経済分析	嘉田 良平	〃
1947	1.27	農村地域開発の諸局面——日欧比較の視点から——	市田 知子	〃
1948	2.10	中国の食糧政策の動向——保護価格政策から競争価格政策へ——	河原 昌一郎	〃
1949	2.17	実験経済学と制度設計	西條 辰義 (大阪大学社会経済研究所)	〃
1950	2.24	政策評価制度の役割と課題——理論と実践から——	山谷 清志 (外務省大臣官房)	〃
1951	3. 3	統計分析による消滅集落への接近——農業センサスにみる集落減少の実態と中山間集落の存続要件——	橋詰 登	〃
1952	3. 9	東京都および埼玉県における出生率の地域差——保育サービスの自治体間格差との関連で——	田中 恭子(埼玉大学)	〃

(2) 特別研究会

本所及び分室において、特別研究会を計32回開催した。

月日	タイトル	報告者	開催場所
15. 4.21	農業の多面的機能と貿易議論——OECDでの経験を踏まえて——	莊林 幹太郎(農林水産省農村振興局, 前OECD事務局)	分室
5.15	【循環利用】 オランダの畜産環境対策	西澤 栄一郎(法政大学)	本所
6.25	今、農業と農政に望まれるもの——将来を展望しながら——((財)食料・農業政策研究センター共催)	中川 聡七郎(鳥取環境大学) 藤澤 研二 (藤澤流通・マーケティング研究所)	"
7. 3	「Combining Agricultural Trade Policy Reforms with Rural Development Investment— How to Make it Work」 (農産物貿易政策の改革と農業開発投資との調整—どうすれば成功するのか)	ヨアヒム・フォン・ブラウン (国際食料政策研究所)	分室
7.18	【危機管理】 食肉製品における日米のリスク管理の現状と課題	大江 徹男(農林中金総合研究所)	本所
7.25	【GMO】 遺伝子組み換え食品のリスクについて	三瀬 勝利(医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構)	"
7.30	【遺伝資源】 生物資源アクセスと利益配分の国際制度と事例——OECDの研究事例——	林 希一郎((株)三菱総合研究所)	分室
8. 1	【世界食料需給】 稲集約栽培法(SRI)の特質と展開	ノーマン・アップホフ (コーネル大学食糧・農業・開発研究所)	"
8. 1	【危機管理】 リスクコミュニケーションの思想と技術(農林水産省消費・安全局共催)	木下 富雄(甲子園大学)	農林水産省
9. 5	農業研修にみる現代青壮年の諸相	相川 良彦 足立 恭一郎	分室
9. 8	【ライフスタイル】 ライフスタイルの変化と都市・農村交流	小川 全夫(九州大学)	本所
9. 8	「安全食品システム」 トレーサビリティシステムと最新IT技術について——農から発信する第3の情報インフラ——	大松 重尚(日本農業IT化協会) [コメンテーター] 久保田 裕子(國學院大学) 渡辺 公三 (愛媛有機農産生活協同組合)	分室
9.11	【行政対応特研[FTA]】 WTO加盟後の中国の農業貿易および農業政策	唐 忠(中国人民大学)	分室
9.19	場所と場の都市計画——コミュニティからのまちづくり——	岩見 良太郎(埼玉大学)	本所
9.30	【循環利用】 日本における作物及び家畜生産にともなう窒素負荷の現状と課題	西尾 道徳(筑波大学)	分室
11.19	【GMO】 GMO穀物の作付け拡大の背景	茅野 信行 (ユニパック・グレイン(株))	本所

月日	タイトル	報告者	開催場所
16. 1.19	植物遺伝資源セミナー 「食料農業のための植物遺伝資源条約（ITPGR）」に関連する世界の動向	新野 孝男 （農林水産省農林水産技術会議事務局） 山本 昭夫 小出 純（農林水産省生産局） 長峰 司（独 農業生物資源研究所）	分室
1.26	青果物トレーサビリティの現状と課題——RF-IDの利用と普及から——（フードシステムに関する研究会共催）	河野 恵伸 （中央農業総合研究センター） 大浦 裕二 （中央農業総合研究センター）	分室
1.29	【ライフスタイル】 農産物の地域内流通実態——千葉県の事例——	鎌倉 一郎 （元 社）食品需給研究センター）	〃
2.20	【危機管理】 ブランド魚とトレーサビリティ	山中 英明（東京海洋大学）	〃
3. 2	【危機管理】 「安心と安全のための政策づくりに向けて」 （1）参加型テクノロジー・アセスメントの現状と将来 （2）誰が科学技術について考えるのか	（1）若松 征男（東京電機大学） （2）小林 傳司（南山大学）	本所
3. 4	【ライフスタイル】 無茶々園における農村・都市交流の実態と展望	宇都宮 広（（株）地域法人無茶々園）	〃
3. 8	【ライフスタイル】 中山間地における介護事業所の展開とネットワーク形成	宮田 喜代志（リハビリ介護研究所）	分室
3.10	【行政対応特研 [FTA]】 韓国における野菜の生産・輸出動向とその背景	姜 暲求（南九州大学）	本所
3.11	現行トレーサビリティ論議の問題点——生産現場からの指摘——	近藤 一海（ながさき南部生産組合） 下山 久信（山武郡市農業協同組合）	分室
3.12	【行政対応特研 [FTA]】 WTO体制下における韓国農業の動向と今後の方向	深川 博史（九州大学）	〃
3.16	【遺伝資源】 伝統的知識と知的財産をめぐる議論の経緯と最近の動向	大澤 麻衣子（特許庁）	〃
3.17	【世界食料需給】 水産科学の最前線と水産海洋都市構想	長野 章（はこだて未来大学） 山下 成治（北海道大学）	〃
3.18	「ベトナム国農業政策の最近の動向」 （Recent Changes in Agricultural Policy in Vietnam） （国際農林水産業研究センター共催）	ボートン・スワン （ベトナム・アンシャン大学）	〃
3.18	美山町集落における地域づくりと高齢者の暮らし （1）「地域振興会の展開にみる地域づくりのあり方」 （2）「高齢者の社会的ネットワーク」 （3）「高齢者の地域組織参加」	（1）渡部 岳陽 （2）原 珠里（独 農研機構中央農業総合研究センター） （3）高田 知和 （早稲田大学人間総合研究センター）	本所
3.22	ルーマニアの条件不利地域の現状と課題——スチャバ県ヤコベニ村を対象として——	大野 晃（北見工業大学） 小内 純子（札幌学院大学） 吉澤 四郎（中央大学） 中道 仁美	〃

月日	タ イ ト ル	報 告 者	開催場所
16. 3.26	【行政対応特研 [FTA]】 (1) 韓国農業・農村の特徴と国際競争下での動向—— イエ・ムラの変貌を中心として—— (2) チリ—韓国のFTA締結をめぐって	(1) 加藤 光一 (信州大学) (2) 中西 三紀 (名古屋外国語大学)	分室

(3) 講演会

政策研究の向上に資する国際的な知見や有用な情報を得ることを目的として、諸外国の著名人等を招き、講演会を開催した。

月日	タ イ ト ル	報 告 者	開催場所
15. 6.19	Choosing Policy Instruments for a Multifunctional Agriculture (農業の多面的機能のための政策手段の選択)	ステファン・タンガーマン (OECD 食料農業水産局長)	分室
8. 2	Rising Temperatures, Falling Water Tables, and World Food Security (温暖化、地下水位の低下と世界の食料安全保障) (大臣官房企画評価課主催、当所共催)	レスター・R・ブラウン (アースポリシー研究所長)	農林水産省
10.14	Changing dimensions of food economy : Future work of OECD (食料経済の変化する局面——OECDの将来作業について——)	ルーク・ブーネカンブ (OECD 食料農業水産局農業貿易市場課長)	分室

(4) 研究成果報告会

当所における研究成果を行政部局及び一般等へ提供するため、研究成果報告会を開催している。

月日	タ イ ト ル	報 告 者
15. 4.18	「日本農業の構造変化と展開方向——2000年センサスによる農業・農村構造の分析——について」	橋詰 登 [コメンテーター] 平 恭輔 (経営局経営政策課)
4.24	「フランスの公的品質表示産品におけるガバナンス構造——競争規則によるラベルルージュ家禽肉の扱いを中心に——」について	須田 文明 [コメンテーター] 幸田 淳 (総合食料局品質課)
6. 6	「介護サービス事業の展開と農の福祉機能」	相川 良彦 [コメンテーター] 今野 聡 (経営局女性・就農課)
7.28	「食品流通コストのマクロ分析」	薬師寺 哲郎 上林 篤幸 [コメンテーター] 瀬戸 一美 (総合食料局流通課)
7.30	「野菜の需給安定に関する経済分析」	香月 敏孝 小林 茂典 勝又 謙太郎 [コメンテーター] 井川 義孝 (生産局野菜課)

月日	タイトル	報告者
15. 9.12	「米政策の総合評価」 ＜個別報告＞ 「米生産調整対策の評価と政策見直しに関する検討」 「米の価格形成の弾力化の影響に関する分析——自主流通米の価格形成とその評価——」 「稲作生産構造の変容と政策課題——90年代前半・後半の構造動態の比較分析から——」	嘉田 良平 薬師寺哲郎 橋詰 登 [コメンテーター] 西野 健（大臣官房情報課）
11.26	「CIS諸国における農業改革」	野部 公一（専修大学） [コメンテーター] 弦間 正彦（早稲田大学）
12.24	「海外諸国の組換え農産物に関する政策と生産・流通の動向」 ＜個別報告＞ 「中国における遺伝子組換え作物をめぐる規制・生産・流通の動向」 「中国の大豆生産動向と遺伝子組換え大豆輸入について」 「アルゼンチンにおける遺伝子組換え作物をめぐる状況」 「遺伝子組換え作物を巡る米・EU貿易摩擦問題について」 「「予防原則」の法理——環境法における論議から——」 「予防原則の適用をめぐる——フランス国際経済法文献のサーベイから——」 「実質的同等性概念と米国政府、バイオテク企業の思惑——予備的考察——」 「国際学術連合会議のGMO評価プロジェクトについて」	立川 雅司 山下 憲博 （（独）国際農林水産業研究センター） 千葉 典（愛媛大学） 渡部 靖夫 藤岡 典夫 須田 文明 足立 恭一郎 大塚 善樹（武蔵工業大学） [コメンテーター] 緒明 俊（油糧輸出入協議会） 川村 和彦 （消費・安全局表示・規格課） 福島 正人 （消費・安全局農産安全管理課）

（５）おにぎり・おむすび懇談会

当所分室において、昼休み時間にそれぞれが昼食を持参して集まり、食事をしながら自由な立場で議論することをねらいとして開催している。平成15年度は、以下のとおり開催された。

月日	タイトル	報告者
15. 4.22	米国農務省での研究活動の紹介と国際協力	Joseph Jen（米国農務省研究・教育・経済担当次官）
5.22	アフリカ・モザンビークの農村の食料安全保障	池上 甲一（近畿大学農学部教授）
6.30	オランダの畜産環境対策	西澤 栄一郎 （法政大学経済学部助教授）

月日	タ イ ト ル	報 告 者
15. 7.10	水産物の原産地表示について——ハタハタの系統構造の解析結果を例として——	柳本 卓 ((独)水産総合研究センター 北海道区水産研究所)
8. 1	参加型農村開発——スリランカのガルオヤ灌漑開発計画の教訓——	Norman Uphoff (コーネル大学食糧・農業・開発研究所所長)
9.25	田園都市国家日本からの農業見直し	蔦谷 栄一 (農林中金総合研究所常務取締役)
10.10	有機認証に関する欧米諸国の周辺事情	大山 利夫 ((財)農政調査委員会)
11.14	岐路に立つ稲作農業	伊東 正一 (鳥取大学農学部教授)
11.20	中国農業の現状と輸入農産物の安全問題	大島 一二 (東京農業大学国際食料 情報学部助教授)
12.19	函館マリフロンティア特区の目指すもの——特区事業がもたらす効果——	山下 成治 (北海道大学大学院水産 科学研究科助教授)
16. 3.22	マグロ資源の実際は?	魚住 雄二 ((独)水産総合研究セン ター遠洋水産研究所)